

主 題：主が母に求められること

聖書箇所：テトスへの手紙 2章3－5節

今日、私たちはテトスへの手紙2章3－5節のみことばを見ていきます。「:3 同じように、年をとった婦人たちには、神に仕えている者らしく敬虔にふるまい、悪口を言わず、大酒のとりこにならず、良いことを教える者であるように。:4 そうすれば、彼女たちは、若い婦人たちに向かって、夫を愛し、子どもを愛し、:5 慎み深く、貞潔で、家事に励み、優しく、自分の夫に従順であるようにと、さとすことができるのです。それは、神のことばがそしられるようなことのないためです。」、今日のテーマをひと言で言うなら「模範になりなさい」ということです。そのことを神は人々に命じておられます。今日、確かに私たちが見るのは、女性たちに対する聖書の教えです。しかし、「模範になる」という命令は女性たちにだけでなく男性たちにも与えられています。若者にも与えられています。信仰をもって主イエス・キリストの救いに与った者たちは、後に続いて来る者たちに模範を示していくという責任があります。今日、私たちはこのテトスへの手紙の2章から、特に、女性に対する教えを見ていきます。

先程から「模範になりなさい」、「模範を示しなさい」と話しています。私たちが模範を示さなければ人々はどう生きていけばいいのかわからないのです。先に救われた私たち、信仰の先輩である私たちが、「主を第一に愛するとはどのように生きることなのか?」、そのことを具体的に示していくことが必要です。語ることはいくらでもできます。問題は、そのように生きることをもって彼らにその模範を示していくかどうかです。「隣人をあなた自身のように愛するとはどのように生きることなのか?」、そのことを私たちは具体的に示していかなければいけません。また、信仰者として神に愛されている者としてどのように生きていくべきなのか、そのことを先に救われた私たちは、後に続いて来る者たちに示していくことが必要です。「模範を示しなさい」、「模範になりなさい」、これが今日私たちがごいっしょに見ていくテーマです。

テサロニケのクリスチャンたちに対してパウロは彼らの信仰を称賛しています。テサロニケ人への手紙第1、1章を見てください。そこに彼らの信仰を称賛しているパウロのメッセージがあります。

1:6, 7「:6 あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました。:7 こうして、あなたがたは、マケドニヤとアカヤとのすべての信者の模範になったのです。」。パウロはこのテサロニケのクリスチャンたちが、テサロニケはギリシャの東部に当たりますが、彼らがギリシャ全土においてすばらしい模範を示していたことを称賛しています。彼らは自分たちの所を訪問したパウロ、また、それ以外の信仰の先輩たちを見て、その生き方に倣っていったのです。この「ならう」ということばは新約聖書に6回出て来ます。「見倣う者、模倣者」という意味です。彼らと同じことをやっていきたいという思いをもって彼らはパウロたちを受け入れ、そして、パウロたちの模範に従っていったのです。そのことをパウロはここで称賛しています。

また、7節にある「模範」ということばも新約聖書には15回出て来ます。このことばは、例えば、金属を打って像を造るとか、何かを鑄造するという意味があるのですが、マッカーサー先生はこのことばのギリシャ語の意味をこのように説明しています。「このギリシャ語は『封印』とか『鑄造したコインの刻印』を表わすために用いられた。」と。例えば、粘土があって、それに封印をするときにそこに王が判を押すのです。そうすると、それはもう王の権威によって封印されたことになるのです。そこには王の指輪なら指輪が写ります。例えば、コインを見たときにそこにだれかの姿がデザインされています。まさに、そのことを表わすことばだと言うのです。ですから、この「模範」ということばが言い表わしているのは、テサロニケのクリスチャンたちの信仰が、その周り人たちの中に非常に克明に刻まれていったということです。周りの人々がこのテサロニケのクリスチャンたちの生き様を見て、まさに、自分たちが見倣っていきたくとするすばらしい印象を残していったのです。いずれにしろ、パウロが主に感謝していることは、自分たちが始めた働きをこの人たちが継続していることだったのです。パウロはイエス・キリストを見ました。そして、パウロはこのイエス・キリストに従って生きたいと願ったのです。イエスが彼の模範でした。そして、テサロニケのクリスチャンたちはイエスを見ていませんが、パウロたちを見たのです。そして今度、彼らは主に従って歩んでいるパウロたちを見て、自分たちもそのように生きていきたいとしてパウロたちの模範に倣っていったのです。こうしてその信仰の遺産は引き継がれていったのです。

今日のテキストに戻って、テトス2:1から見ていくと、ここには、男性に対するメッセージがあり、

女性に対するメッセージがあり、奴隷たちに対するメッセージがあります。なぜ、このようなメッセージがここに記されているのでしょうか？その理由がその前の箇所に記されています。実は、この手紙に書かれている教会はクレテという小さな島に存在した教会です。このクレテの住民は非常に罪深かったのです。1：12には「クレテ人は昔からのうそつき、悪いけだもの、なまけ者の食いしんぼう。」とあります。しかも、13-14節には「この証言はほんとうなのです。ですから、きびしく戒めて、人々の信仰を健全にし、：14 ユダヤ人の空想話や、真理から離れた人々の戒めには心を寄せないようにさせなさい。」と書かれています。つまり、このようなことが起こっていたのです。この教会が抱えていた問題は、教会が健全であろうとしているにも関わらず、いろんな間違っただけの教えが入り込んでいたことです。16節を見てください。「彼らは、神を知っていると口では言いますが、行ないでは否定しています。実に忌まわしく、不従順で、どんな良いわざにも不適格です。」と。

皆さん、この教会の様子が頭に描けますか？人は集まっていたかもしれないけれど、その中には誤った考えを持った教師たちもいたのでしょう。そこでパウロが命じたことは、このクレテの教会がしっかりと正しい教えに立って歩んでいくようにということです。夫として男性としてどのように生きていくべきなのか、妻として女性としてどのように生きていくべきなのか、奴隷としてどのように歩むことが神の前に喜ばれることなのか？そして、そのような歩みをそれぞれが為すことによって、個人だけでなく、その群れ全体がこの地域にあってキリストのすばらしさを証することになると言うのです。そのように考えると、今の私たちと変わりありません。私たちは大変な国に生きているのです。世界中にあって、これだけ自由な国でもクリスチャンが少ないのは私たちの国だけです。その中で、神は当然私たちに、男性にも女性にも子どもたちにも、どのように生きていくべきかを教えてくれています。そして、私たちがそのように生きることによって、そして、群れとしてそのように生きていくことによって、私たちはキリストのすばらしさを世に証して行くことになるのです。ですから、どの時代であっても、どの場所であっても、神が望んでおられることは同じなのです。そこで、2章には先程から話しているように、男性たちに女性たちに対する教えが記されているのです。今日、私たちは「母の日」ということもあるので、女性たちに対する教えを見ていきます。

神は女性たちにどのようなことを望んでいるのでしょうか？もちろん、ここには年齢的に区別して記されています。年輩の婦人たちと若い婦人たちよと。でも、年齢に関係なく、私たちが歩んでいくべき方向ははっきり示されています。神はどのようなことを望んでおられるのか？そのことが明確に記されています。同時に、既婚者だけではありません。そうでない女性たちもこのような女性として成長し続けてください。神が何を望んでおられるのか、ごいっしょに見ていきましょう。

☆模範になりなさい

A. 年輩の女性への教え 3節

まず、3節に年輩の婦人たちに対する四つの教えがあります。恐らく、パウロがこの教えを与えるときに、この人たちはすでにそのような歩みをしていたのでしょうか。なぜなら、この人たちは皆でなくてもほとんどが霊的な人たちだったからです。神はどのようなことを年輩の女性たちに望んでいるのか？みことばを見る限り「年をとった婦人たち」とありますが、具体的な年齢が出ていません。恐らく、子育てを終えた人たちのことです。四つの生き方が記されています。

1. 責任ある生き方

1) 敬虔であること

「敬虔」ということばは「聖なる者にふさわしい、神聖な者にふさわしい、」、もっと言えば、「聖職に携わる、つまり、聖い仕事に携わる人、祭司のように」と、そのような意味を持ったことばを使っています。あなたは救いに与ったのだから、神を敬う者として生まれ変わったのだから、それに相応しく、聖なる者に、神に仕える者にふさわしく生きて行きなさいと言うのです。「敬虔にふるまい」とあります。パウロは敢えてこのことばを記すのですが、当然、パウロ自身の頭の中にあっただのは、女性たちが外見だけ、行為だけを行なっている、そのようなことがあってはならないということです。というのは、実は、この「ふるまう」ということばは「からだや心などの状態」を表わす表現です。ですから、パウロが「ふるまう」と言ったのは、ただ行なえばいいということではなくどういう心をもってそれを行なっているかということと言わんとしたのです。あなたが本当に救われた者として、神を愛する者として、また、神を恐れる者として正しい心を持っているなら、間違いなく、そこから正しい行ないが生まれて来ると、そのことを望んだのです。ですから、信仰者であるあなたが本当にいつも神を愛するがゆえに、神を恐れるがゆえに心を聖く保っていく、そのような心から生まれて来る働きというのはすばらしいものです。最初に、パウロが言っていることはそういうことです。

2) 悪口を言わないこと

「悪口」とは、英語の訳を見ると、敢えて、二つの訳を見ましたが、一つは「悪意のある陰口」と訳しています、もう一つの訳を見ると「誹謗、中傷、口が悪い」と訳せることばを使っています。いろいろな訳ができることばですが、実は、Ⅱテモテ3：3では「そしる」と訳されています。「情け知らずの者、和解しない者、そしる者、…」、この「そしる者」が今見ている「悪口」と同じことばです。「そしる人」とは「人のことを悪く言う、人を非難する、人をけなす」ということで、そのようなことがあってはならないというのがここでの教えです。もう一つ忘れてはならないのは、ここで「ディアボロス」というギリシャ語が使われていることです。実は、先程も言ったようにいろいろな意味があるのですが、その中の一つはマタイの福音書4章1、5節に出て来ます。マタイ4章はイエス・キリストが誘惑にあったときのことが書かれています。そのときにイエスを惑わす悪魔、それがこの「ディアボロス」なのです。つまり、あなたがだれかのことを悪く言ったり、非難したり、けなしたりしているなら、それは神がお喜びにならないだけでなく、それはまさにサタンが一番喜ぶことをしているということです。ですから、私たちはどれ程自分のことばによって罪を犯さないように注意しなければいけないかということなのです。

3) 大酒のとりこにならないこと

実は、この動詞の時制は完了形を使っています。ということは、すでに「とりこ」になっている人がいたのでしょう。お酒がなくてはやっていけない、まさに、その奴隷となっているのです。パウロが言いたいことは、私たち信仰者はそのようなものから解放された者だということです。お酒がなければやっていけない者ではないのです。なくてもやっていけるのです。パウロはピリピ人への手紙4：11、12で「:11 乏しいからこう言うではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。:12 私は、貧しさの中にある道も知っており、豊かさの中にある道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。」と、「どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。」と言っています。「…あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。」と、つまり、どんなときでも「私は満足している」と言うのです。私たちの問題は、心の渇きというものを神以外のところに求めようとすることです。だから、いつまで経ってもその心の渇きが満たされないのです。しかし、我々が神のもとに助けを求めていくときに、神が私たちの内に満足を与えてくださるのです。そうすると私たちは、お酒だけでなく、そのような神以外のものに信頼を置く必要はないのです。それらの奴隷となることはないのです。私たちはそのようなものから解放されて神の奴隷となったのです。この方が私たちに本当の満足を与えてくださる。酒の奴隷になっはいけないと言います。

4. 良いことを教えること

ここで使われていることばは、人々の前でメッセージを語るとか、だれかの前で教えを為すということよりも、どちらかという「個別に、個別になって助言を与えたり励ましを与える」という意味を持ったことばです。ですから、教会の年輩の婦人たちは長い信仰歴があって、長い間主に忠実に従って来たから、パウロは「益々そのように生きていってください。神を恐れて、心から主に従い続けてください。」と言うのです。そして、ことばで罪を犯すことないようにことばに注意を払って、そして、いかなるものとりこになることがないように、そして、あなたの周りにはいる多くの人たちに、主のみことばをもって大切な知恵を与えてあげなさいと言います。その知恵をもってあなたたちは生きて来たのだから、その知恵を人々に分けてあげなさいと言うのです。

このような婦人たちが教会にいるということは教会にとって宝です。そして、このような婦人たちが教会にとって必要なのです。余計なことを言う人はたくさんいます。しかし、問題は、後から続いて来る若い人たち、信仰の若い人たちに模範を示す信仰者であるかどうかです。パウロが言うのは、そのような人でありなさいということです。もちろん、すべての点において完璧な人はいないでしょう。失敗するでしょう。そのときに主の前に正しく悔い改めて、そして、正しく歩み続けて行くのです。私たちが忘れてはならないことは「あなたは模範だ」ということです。あなたの後に続いて来る人はあなたを見ているのです。

ですから、見てください。2章4節に「**そうすれば**」という接続詞が付いています。この接続詞は目的や結果を表わすことばです。つまり、パウロは「もし、あなたがこのように歩み続けて行くなら、あなたはある目的を達成することになる」ということを言っているのです。条件があります。今見たように「もし、あなたがこのように歩んでいくなら、」、あなたがこのような歩みをするならあなたは大いに用いられるということです。どのようなことが為されるのでしょうか？5節の中程に「**さとす**ことができ

るのです。」とあります。あなたがこのように信仰者の模範として主の前を正しく歩んでいくなれば、主にあって成長していくなら、あなたは若い人たちをさとすことができると言うのです。この「さとす」とは「教育する、訓練する」という意味です。あなたたちの生き様をもって若い人たちを訓練していく、彼らを教育していくということです。

人々はいろいろな教えを聞きます。でも、もし、その教えを実践している人がいるならば、その歩みというのはことば以上に力があります。私たちの信じているものが本物かどうかは、私たちがどのように生きるかによって明らかにされます。本当の喜びをもって生きているならいつも喜んでおられるはずで、それによって私たちの喜びが本物かどうか分かります。私たちが罪赦されたことを喜んでおられるなら、行ないによって、この救いが本物であるのか、この救い主が本物であるのかが明らかになっていきます。今、パウロが私たちに言うこと、特に、年輩の女性たちに言ったことは、もし、あなたたちがこのように生きていくなれば、周りの人たちはそのように生きているあなたたちを見て、あなたたちが生きているように私たちも生きていきたいと願うようになるということです。あなたが主を愛して主に忠実に従っているその様子を見るときに、彼らも私たちもそうありたいと、あなたが主のみことばを実践していることを見るときに彼らもそのように生きていきたいと願うのです。女性としてどのように生きるべきかをあなたが示しているならば、間違いなく、若い女性たちは「私もこの人のようになっていきたい」と言います。

パウロはそのことを言っているのです。そういうことが神が教会において望んでおられる神ご自身のみこころです。ことばに依るよりも行ないの伴った教えのほうが力があって影響力があります。もし、あなたがそのように生きているなら、若い女性たちはあなたを見て、あなたが歩んでいるように次のようなことをやっていこうと思えます。それが4節と5節に七つ出て来ます。悲しいことに、もし、そのような模範がなかったとしても、だからと言ってあなたはどのように生きていっても良いとはなりません。そのような模範があろうとなかろうと、あなたはどのように生きていくことが必要だと、それがここに七つ記されていますから、見ていきましょう。

B. 若い女性への教え 4-5 a 節

1. 夫を愛する : 既婚の女性へ

結婚されている皆さんにとって一番大切なことは何かが記されています。それは「あなたの夫を愛すること」、それが最優先事項です。あなたの仕事でもないし、あなたの親でもないし、あなたの子どもでもないのです。あなたにとって最も優先すべきことは「あなたの夫を愛すること」です。この夫を愛するということについて、多くの皆さんはこの「愛」ということばから、恐らくこれは神の愛である「アガペ」を言っていると思われるかもしれません。なぜなら、愛というのは非常に難しいものであって、神の愛をしっかりと覚えながら、神の助けを頂きながら何とか夫を愛することができるように思っているからです。実は、この4節で使われている「愛」は「アガペ」ではなく、「フィレオ」の愛です。つまり、ここでパウロが言いたかったのは、どんな犠牲をもって夫を愛しなさいということではなく、「夫に対して愛情を持ちなさい」ということです。もっと言えば「夫を自分の恋人としなさい」と言っているのです。感情の伴ったものです。そのように夫を愛しなさいということがこのみことばが教えることです。

先日、ここに来られたバーネット先生がこんな面白い話をしてくれました。彼がいる教会は今5年目ですが、この教会は周りの友人たちから言わせると、非常に世的な教会であるとのこと。とても大きな教会です。それを聞いた時になかなかそうだと信じ難かったのですが、彼はこんなことを言いました。婦人たちの集会で私はこのようなメッセージをした。「ご婦人方よ、あなたのご主人があなたのベストフレンドとなるようにしなさい。」と。そうすると、その教会のかなりの女性たちが「そんなことはできない。ベストフレンドになどしたくない。」と文句を言った。それを聞いたときに「なるほどなあ、」と思いました。みことばが私たちに教えるのは今私たちが見ている通りです。そのような愛をもって夫を愛していきなさいと言うのです。

まず最初から、非常に高いハードルが置かれたようです。でも皆さん、私たちが学びをするときにいつも繰り返すことは、神のみこころをあなたは実践できるということです。ここがすごいところなのです。あなたが自分の意志をもって一生懸命やろうとしても無理なのです。でも、神がそのようにさせてくださるのです。そして、あなたがそのような愛をもって夫を愛して行くなれば、神があなたを祝してあなたを通してみわざを成してくさるのです。

2. 子どもを愛する

私たちは子どもたちの間でえこひいきしてないかどうか、区別していないかどうかです。この子は自

分の理想の子どもである、この子はそうでないと、そういうことがあってはならないということです。子どもたちが間違っただけをした時、罪を犯した時、「こんな酷いことをした。こんなことをするあなたは私の子ではない！」などと言いますか？私たちに必要なことは無条件で愛することです。ただし、子どもたちが間違っただけ、罪を犯した時には愛をもってそれを正すことが必要です。それが愛です。

ソロモンは箴言13:24で「むちを控える者はその子を憎む者である。子を愛する者はつとめてこれを懲らしめる。」と言っています。怒りをぶつけるのではありません。それは訓練でもないし愛でもありません。でも、罪を犯している子を愛してその子が正しい歩みをして行くために、忍耐と祈りをもって教え続けていくこと、そして、そのときにむちを使うことも必要であると言うのです。目的は一つです。その子が罪から離れて神の前に正しい歩みをするためです。

3. 慎み深く

自分自身が節度を保って、神の前に何が正しいかを考え、いつも正しい判断ができるようにしていなさいということです。何度も学んで来たように、私たちににとって大切なことは、いろんな状況にあって、日々の様々な出来事の中にあつて、何が神の前に喜ばれることで正しいことは何かを考えてそれを選択することです。是非それを続けてくださいと言います。

4. 貞潔

もちろん、このことばが示すように、一人一人が自分の身を罪から守っていくことが大切です。しかし、もう一つ覚えなければいけないことは、自分自身が誘惑を与えることのないようにしなければいけないということです。ですから、私たちがどのような洋服を身に着けるのかを考えてみる必要があります。なぜ、そのような洋服を身に着けようとするのか？なぜ、そういうことをしようとするのか？私たちの心を罪から守ること、自分自身を聖く保つことが必要であるし、そして、そのような誘惑を人々に与えないことが大切です。

5. 家事に励む

女性たちは家庭にあつて大切な務めがあるとみことばは言います。これはこの世の考えと相反するものです。女性の中にも才能を持っている人がたくさんいるから社会に進出してと言います。確かに、その通りでしょう。しかし、神が言われていることは、彼らにはすばらしい、そして、大切な務めが与えられているということです。それは女性には家庭という大切な働きのある場所があるということです。家庭にあつて、女性たちは家族の者たちに大切な影響を及ぼしていくのです。サタンは愚かではないですから、悪賢いサタンはいろいろなことによつて私たちを惑わします。いつの間にか、私たちクリスチャンもイエスを知らない人たちと同じような目標を掲げて親業をやっています。何のために親業をするのですか？「いい学校に入れるためです。いいところに就職させるためです。」と。それがいかに間違っているかお分かりになるでしょうか？神はそんなことを私たちに命じておられません。私たちに託された子どもは私たちのものではないのです。神のものです。「あなたに預ける」と言われたのです。「神さま、何をしたらよいのですか？」、神は「わたしを愛する者として育てていきなさい」と言われます。

ですから、私たち親の責任は、子どもたちと時間を取りながら、彼らが神を愛する者として成長していくようにしっかりと子育てをして行くことです。そこで、なぜ、女性が家庭において必要なのか？パウロはIテモテ2:14-15でこのように教えています。「また、アダムは惑わされなかったが、女は惑わされてしまい、あやまちを犯しました。:15 しかし、女が慎みをもって、信仰と愛と聖さとを保つなら、子を産むことによつて救われます。」と。ご存じのように、子どもを産んだら罪が赦されるということをおっしゃっているのではないことは明らかです。だれもが子どもを授かるわけではないからです。独身の人もいますから。ここで言われているのは、明らかに罪からの救いとは違うメッセージです。確かに、ここで使われている「救われます」ということばを見ると、このことばには「罪からの救い」という意味もあるのですが、それだけでないのです。「危険から救われる」という意味もあるのです。また、「安全や幸福、また、繁栄の元の状態へと修復する、元の状態へと回復する」という意味もあります。ということは、ここでパウロが教えていることはこういうことです。14節ではアダムとエバのことが言われていますが、その前の13節を見ると「アダムが初めに造られ、次にエバが造られたからです。」とあり、明らかに、アダムとエバに関連したことです。そして、創世記に記されていることを見ると、エバがサタンに誘惑されて木の実を食べました。その結果、罪が世界に入り込んだのです。この汚名を晴らすことができるということです。どのようにするのか？罪を持って生まれてきた子どもたちにしっかりと神のことを教えることによつて、その子どもたちが神を愛する者へと生まれ変わるなら、元の状態に戻る訳です。なぜなら、エデンの園にあつて神が最初にお造りになったときに、アダムとエバは罪を犯す者ではなかったからです。その状態に回復すると言うのです。

だから、神は女性に大変な務めを託したのです。家庭にあってしっかりと子どもたちを教える行きなさいと言います。だから、Iテモテ2：15で「女が慎みをもって、信仰と愛と聖さを保つなら、」と言っているのです。つまり、その女性がしっかりと神の前を正しく歩み、みことばに沿って生きているなら、確実に、その影響が子どもに及んでいくからです。このようなすごい務めを神は女性に与えたのです。ですから、残念なことは、もし、そういう大切な責任を放棄してしまうようなことがあるならば、そこに大変な問題が出て来る可能性があるということ覚えなければいけないということです。結果がどうあれ、神は私たちに「こうありなさい」と教えてくださっています。皆さん、そのみことばを信じてあなたが従って行くなれば、神はちゃんとあなたに必要なものを与えていってください、それも私たちの信仰です。

6. 優しく

「優しく」とは、例外なく、すべての人に対して思いやりとあわれみをもって良いこと、正しいことをしていきなさいということです。すべての人に優しく接しなさいと言うのです。

7. 自分の夫に従順である

この「従順」ということばは「その権威の下になる」ということです。神の前には男性も女性も、夫も妻も平等です。しかし、みことばが教えることは、妻が自らの意志をもって夫の権威のもとにへりくだらうとすることです。そうして夫に仕えていこうとします。なぜなら、女性は夫の助け手として造られたからです。夫が霊的リーダーシップを発揮していくために、その助けを為す務め、それが女性に与えられたものです。Iテモテ2：11, 12を見てください。「女は、静かにして、よく従う心をもって教えを受けなさい。:12 私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません。ただ、静かにしていなさい。女は、静かにして、よく従う心をもって教えを受けなさい。」、ここには「してはならない」という二つの禁止の命令があります。

(1) 公の集会において教師になること

というのは、このみことばを見ると「女が教えたり男を支配したりすることを許しません。」と書かれています。どちらが偉いとか偉くないということではありません。務め、責任が違うということです。

(2) 男性の上に立つこと

男性を夫を支配することを許さないと言います。この「支配」ということばは「権力を振るう、上に立つ」という意味です。ですから神は、女性が教会において男性を教えたり、男性を支配したりリードするようなことをしてはならないと教えておられるのです。そして、そのためにパウロが教えたことは、先に見たIテモテ2：13にあるように「**アダムが初めに造られ、次にエバが造られたからです。**」という創造のことに基づいています。創造の順位とその役割です。まず、男性が造られ、そして、被造物の中に彼にとってふさわしい助け手が見当たらなかったのが女性を造ったとあるからです。ですから、先程から話しているように、務めがあるのです。責任が違うのです。ところが、その責任を全く無視して、自分たちのやりたいようにやっていた原因となったのが「罪」です。

ですから、みことばはちゃんと私たちに教えてくれています。「家庭にあって、妻たちよ、夫に従っていきなさい。あなたたちの役割は、夫が本当にリーダーシップを発揮できるように、喜んでそのリーダーシップに従って行こうとすることです。」と言います。それは、たとえその夫が未信であったとしても同じことです。「そのようにしなさい」とペテロはIペテロ3：1, 2で言っています。「同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。:2 それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。」。あなたが神を愛するゆえに、神が教えておられることを実践して行くなれば、必ず、人々はあなたを通して働かされている神を見ると言うのです。どうぞ、ご主人を愛して、ご主人を尊敬して、ご主人のそのリーダーシップに喜んで従っていってください。もちろん、罪を強要される場合は別です。それ以外はそのリーダーシップに従って行くことです。そうすることによって、ご主人はあなたを信頼します。

C. このように生きる目的 : 神が喜ばれるため 5 b 節

5節の後半に「それは、神のことばがそしられるようなことのないためです。」とあります。「悪口を言われる、ののしられる」、そのようなことのないためだということです。3-5節で見たように、年輩の婦人たちのそのような歩みを若い人たちがして行くように、あなたは彼らを教えることができるということです。もし、あなたが本当に霊的に成長しているならば…。非常に大切なことをパウロは私たちに教えてくれました。教会の中であって、信仰者である婦人たちがどのように生きていくのか、今、私たちが見て来たことを通してこのように言えます。どのレベルであっても、我々の信仰の成長において、

ゴールは天に行く時までこの地上にはないということです。昨日より今日は成長したい、もし、明日が与えられたら今日より成長したいです。そのようにして私たちは生きていくのです。与えられた聖霊なる神が私たちのうちにおられる働きは、我々をキリストに似た者に変えようとするのです。その働きを邪魔することなく、つまり、罪を犯して不従順な歩みをして聖霊が働けないようにするのではなく、神の前に正しく歩み続けていくなれば、あなたはそのような人に変えられていくのです。そのような歩みを私たちは地上にいる間継続していくのです。そして、あなたがこのみことばの教えるように真剣にみことばに従って行くなれば、必ず、あなたの周りの人たちは見るのです。「うちの子どもはもう成長して家を出て行きました。」と、彼らが救われる可能性はないのでしょうか？とんでもない！神が言われていることは、あなたがそのような歩みをするときに、家を出た子どもたちであったとしても、神に逆らっている子どもたちであっても、あなたのうちに働いている神を見ることによって、その神に導かれていくということです。「もう手遅れだから止めておこう。」ではありません。私たちは天に行くまでこの地上に置かれている間、少しでも、キリストに似た者に変えられていく歩みをして行くなれば、つまり、みことばに従って生きていくなれば、神があなたを通して最善を為してくださるというその希望を持っているのです。それが私たち信仰者の希望です。

どうぞ信仰者の皆さん、そのように歩んでください！今日の教えは女性のためであって男性には関係ない？とんでもない！同じことです。みことばに従うことです。今日は女性の学びをして来ましたが、まとめて言うと、このように言えるのではないのでしょうか？ペテロのことばですが、Iペテロ3：3-4「あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外面的なものでなく、：4むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。」、神の関心はあるあなたの外側ではない、あなたの内側だと言うのです、このみことばは続いてこう言います。「これこそ、神の御前に価値あるものです。」と。私たちが関心を持たなければいけないのは自分自身の心です。主の前に心が正しければ、正しい心から正しい行ないが生まれて来ます。心が正しければ、主のみことばを聞いたときにそのように生きていきたいと願うはずです。そして、感謝ことに、それを実践する恵みを神はあなたに与え続けてくれるのです。

だから、私たちは主の命令を聞くときにそれを重荷とは感じないのです。「神は私をこのような人に変えていかれるのか！是非、そうしてください神さま！」と、そのような願いを持つことになります。アメリカ、ダラスのジーン・ゲッツという牧師がこんなことを言っています。「子どもにこうしろと言うだけで、神の道を歩ませることは決してできません。キリスト教の真理は、親の生き方を通して示さなければなりません。もっといけなは、子どもに神のことを話して聞かせ、さらに教会へ行かせ、そこで神について学ばせておきながら、親が聖書に背いて生活することである。」と。一人一人が考えてみなければいけないことです。私たちは模範を示すのです。私たちひとり一人がどのように生きていくのか？それは子どもたちに「このように生きなさい」ということを教えるのです。良いことも悪いことも…。

どうぞ、神を信頼して、力強く歩む信仰者としてぜひ歩んでください。神の約束は必ず成されると、私たちのような者を神は変えていってくれると、こんな私に勇気をくださる、こんな私を変えていかれると、その約束をもって希望をもって主のみことばに従い続けてください。そのような歩みを為すときに、主が望んでおられる働きをあなたを通して為されます。どうぞ、そのような婦人として成長して行ってください。

《考えましょう》

1. どうして模範を示すことが大切なのでしょう？
2. 主が母に、また、女性に求めておられることは何でしょう？
3. このように生きることがどうして大切なのかを挙げてください。
4. あなたが主から示されたことを実践するために、この礼拝後、だれかと祈り合う時間を持ってください。